

小学校との連携強化を図るために（円滑な移行を求めて）

八王子市立南大沢小学校長

稲村 正 廣

【課題として捉えられる新入学児童の実態】

- 我慢することができず、わがままで自分勝手な行動をする。
- 家庭での基本的な躰がなされていない。
- その時の気分等で、友達と一緒に行動がとれない。
- 友達とのトラブルになると、すぐに暴力をふるう。

【実態に基づく小学校での重点的な指導・対応】

- 「人の話を聞く」「時間や決まりを守る」「自分のことは自分でする」等の集団行動における基本的な態度の育成。
- 「友達の気持ちを考える」「進んで友達とかかわる」「喜んで登校する」等の友達や学校とのかかわり方の育成。
- 気になる子（発達障害児等）の支援の在り方

【円滑な接続を図っていくために】

1. 教師と保育士との交流を深める。

- 保育園の教育方針や園児の実態及び保護者の考え方等の情報交換。
- 小学校の教育の現状や教育課程などの情報交換
- 互いの教育内容や学び方の理解を通して、接続期の一貫性のある教育の推進。
（小学校以降の生活や学習の基盤となる力の共通理解）
- 発達障害児の情報提供（障害の状態に応じた必要な支援の手立て・配慮など）

2. 幼児と児童との交流を計画的に活発にする。

- 交流がその場だけの1回で終わるのではなく、何回か続く交流を計画する。
（児童への憧れの気持ちをもたせたり、小学校への期待感をもたせる。）
- 学び合える交流を考える。（生活科・総合的な学習の時間等）
- ◇ 様々な交流を通して、幼児が出会った遊びや内容を自分たちの遊びや生活に取り入れる。
- ◇ 同じ地域に暮らす幼稚園児との交流を図る。

3. 保護者への啓発

- 保・小の連携のねらいや成果を知らせる。
- 親子で保育に参加できる企画を取り入れ、集団の中での我が子の様子に気づくようにする。
- 保護者がもっている入学への不安や悩みなどの相談にのり、親子ともに安心・自信をもって入学できるようにする。
 - ・ 入学までに行えるようにしてほしいこと。

あいさつや返事ができる。自分の名前が言える。自分が困っていることややってほしいことなどを相手に伝えることができる。洋服の着脱が一人でできる。傘を開いたり、たたんでとめたりできる。食事の前、トイレの後、帰宅後など手を洗う習慣をつける。一定の時間内で食事ができる。整理整頓、片付け、後始末ができる。

【課題】

1. 情報交換、交流活動、研修等の共に学び合うための時間や機会がなかなか作れない。
2. 新1年生は、様々な園（含学区外）から集まっている。同じ園時代の人間関係が続く。
3. 働きかけ、実践の校長、園長、職員の意識の問題。
4. 保育園の管理職に、個人情報を出さない考えが強い場合がある。
5. 親の意識の変化による家庭の教育力の低下。